



揮毫 伊藤茂男氏

鎌田地区
平成28年3月1日現在
世帯数 8,648 戸
男 9,828 人
女 9,530 人

発行 鎌田地区公民館
公民館報編集委員会

鎌田地区地域づくり報告会

3月7日に第一回鎌田地区地域づくり活動報告会が、公民館大会議室にて関係者約50名の参加により、パネルディスカッション形式で実施された。パネラーに町会連合会、民生児童委員、社会福祉協議会鎌田支会、食生活改善推進員、中央包括支援センター、公民館を迎え、センター長のコーディネートで活動の目的や背景などの発表が行われた。



民生児童委員

報告会は、鎌田地区の課題
● 国道19号や小中学校区で地区内が分割されている
● 地区としての高齢化率は市全体より低いが町会毎に率が大きく異なる
● 公共施設が地区の北部に集中している
などをみんなで確認した。続いて、各団体の活動内容が発表された。

社会福祉協議会鎌田支会

ふれあい配食弁当の配布や福祉講座、視察研修の実施
● 「私達の健康は私達の手で」のスローガンのもと、地区や家庭に広めるために、町会や公民館で食に関する研修や料理教室を実施

食生活改善推進員

誰もが住み慣れた家で地域で安心して暮らし続けるた
● 中央包括支援センター

町会連合会

市の意向や地区の課題について情報の共有
● 各町会の事例等の発表
● 金沢市の地域作り事例視察

鎌田地区公民館

組合めの子ども会育成会との共催事業、福祉ひろばと共催の歩こうかまだ健康ウォーキング

健康づくり推進員

鎌田地区はまちづくり協議会という新たな組織を作っていないが、町会連合会を核として地域課題に関係ある団体が集まり、協議をしていくことで地域づくりの課題解決方針を決定する形をとっている。

最近では2館目の福祉ひろばの建設中止に伴う現行ひろばの増築については町会連合会と社協鎌田支会が、住民送迎システムの構築は第2福祉ひろば運営検討委員会が、出前ふれあい健康教室の充実はひろば推進協議会がそれぞれ担当して推進している。

これらを成功に導くには地区住民の多くの参加協力が必要で、皆さんで盛り上げて輪を広げ、楽しい住み良い鎌田地区を創りましょう。

(鎌田地区 地域づくりセンター長 遠藤 彰)

地域の子どもは地域で支える

信州型コミュニティスクールの取り組み

地域づくりの一環として、平成26年度から長野県内の小学校では信州型「コミュニティスクール(CS)」が動き出している。それは、地域住民が①学校運営へ参画②学校支援③学校関係者評価を一体的・持続的に実施し、地域に開かれた信頼される学校づくりを学校と地域が協働で進める考え方である。



地域の方からかご作りを教わる

■ 信州型CSの特徴 ■

- ①これまで各地域で行われてきた学校を支援する取り組みを土台にする。
- ②学校と地域住民や学校支援ボランティアが集まって話し合いの場を持つ「運営委員会」を設置する。
- ③運営委員会を通じて「こんな子どもに育てたい」という願いや課題を地域全体で共有する。
- ④願いや課題を共有した地域の方に学校支援ボランティアなどに参加いただき、一緒に子育てを育てていく。

鎌田中学校や信明中学校では総合学習の時間を活用し、地区内施設や公園の清掃、地区の歴史巡り、地区の方から教わる各種出前講座など、多岐に亘って学習している。これらの活動は、ただ単に作り方ややり方、地区のことを教わるだけでなく、地区の方との交流や繋がりを目的として、これを機会に地区にも目を向けてもらうことが狙いだ。

鎌田小学校では平成28年度から地域の方の協力を得ながらクラブ活動を行う予定となっている。

取り組み内容は各地区の状況や地域性に合わせて実施しているが、総じて学校と地域が協力し合い、地域の未来を担う子どもたちの生きる力を育てていくことが重要となっている。住民全体で「地域の子どもは地域が育てる」との想いを持って活動に協力していきたい。

(竹内 賢)



昨年10月よりかっこいいおじさんを目指すと共に、男性が地域に出るきっかけづくりを目的として60歳以上の男性限定の講座が始まった。声帯や膈下丹田を鍛えるボイストレーニングをすることで、健康面でも多くの効果が期待できるようだ。

地区外からの参加者も含め、20名の皆さんが、全員で大音量の音楽に負けじと大きな声で発声練習をしてきた。はじめは遠慮や恥ずかしさもあってか、小さかった声も回を重ねるごとに少しずつ大きく、力強くなった。12月からは歌の練習も始まり、まずまずメンバーのやる気も上がった。曲はフランク・シナトラの「Fly Me to the Moon」というジャズのスタンダード・ナンバーだ。歌詞が全て英語で覚えることが大変だったようだが、メンバー同士で声を掛け合いながら発表会に向けて練習に取り組んできた。

1月には福祉ひろばのニコニコサロンで発表会の予行練習として披露した。大分歌も仕上がっており、曲の合間に手拍子をいれ、体を左右に揺らしてリズムを取りながら歌った。サロンに来ていた方たちも、一緒に手拍子をしなから聞いていた。

発表会は2月21日に松本市音楽文化ホールで行われた。当日は250人もの観客が集まり、鎌田地区はトップバッターで発表をした。メンバーは「今まで歌ってきた中で一番の出来だった。」と話してくれた。今回の講座はこれで終了してしまいが、参加者の中では今後も定期的が集まって活動をしたいと言う話も出ているようだ。更なるカッコいいおじさんを目指して頑張ってほしい。(塚原有香)



カラフルなスカーフを付け熱唱

※膈下丹田とは…へその下あたりで、心身の精気が集まるといわれている。

戦時下で勇氣ある人道的行動

杉原千畝記念館で学ぶ

2月19日鎌田地区人権啓発推進協議会の視察研修で、町会長・民生児童委員・町内公民館長計32人が参加し「日本のシン・ドラー」と呼ばれる杉原千畝記念館を訪ねました。

第2次世界大戦中ナチスドイツに迫害され、ヨーロッパを逃げていたユダヤ人のために政府の命令に背き、日本通過ビザ(命のビザ)を発給し、約6000人の命を救った外交官です。千畝の生誕地岐阜県八百津町にある記念館は、人道の丘公園の中に建つ木造の温かさがあふれる小さなものでした。

初めにイスラエルの国際交流員として来日以来17年間八百津町で暮らしている、リバーモア・ハニトさんからお話を聞きましました。ナチスドイツは第1次世界大戦に負けたのはユダヤ人のせいだと迫害を始めました。それは自分が悪いことを人のせいにする、言わばいじめだと表現していました。ユダヤ人は殺しても良いという考え方で、今まで普通に生活してきた人々が600万人殺害されたのです。それは松本市に住んでいるという理由で、家族も友人も隣人も殺されてしまうのと同じだと言われました。

千畝の行動は、当時同盟関係だったドイツに対する裏切り行為でしたが、ユダヤ人も同じ人間だとの考えで命のビザを発給しました。日本に帰国後外交官としての仕事はありませんでした。その40年後にイスラエルの「諸国民の中の正義の人賞」を受賞し、終戦後70年経った今もイスラエルの人々は千畝に深く感謝しているそうです。

ハニトさんは言いました。「誰でも杉原千畝になれます。目の前に困った人がいたら、手を差し伸べて助けてあげてください。今日はその気持ちを持って帰って欲しい」と。

その後館内を見学し千畝の生い立ちや、ナチスのユダヤ人大虐殺の経緯、命のビザで救われた人たちの感謝の手紙などに触れ、改めて戦争の愚かさ、これから自分

が人としてどう生きるべきかなど考えさせられた、とても良い視察研修となりました。(町内公民館連合会長 小林嘉美)



ハニトさんのお話に参加者

町内公民館長として、誰もが住み慣れた家で安心して暮らせる地域にしようとして活動してきたが、マシナリ化してきたなと思っていた。

「これまでに何ができて、何ができなかったのか」を整理し、新たな可能性を見つけたいと松本市公民館研究会に参加した。

公民館が地域に果たすべき役割は住民の生活に根ざした学習と実践を展開し、様々な地域課題の解決をはかることにある。

パネルディスカッションにより提供された話題と分科会での討議からまとめた。何をやるか、学びをどう次のステップに活かすかは、①気づきや変革の促進②そのプロセスの支援③地域資源の積極的連携や組替え④課題の解決策の提示と実行である。「誰でもが先生、誰でもが生徒の協働の関係が大切で場合によっては専門的な助力を得ると良い」と教えられた。

私としては、今後従来の慣行にとらわれず、アンケート等により住民の考えを把握し一緒になって取り組み、やる気がある人材を見つけだし育てていくことかなと思った。(松川 靖彦)